

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(つながり・かかわり)への助成

「第20回海外高校生による日本語スピーチコンテスト および青少年のための異文化交流プログラム」事業

海外で日本語を学ぶ高校生を招き文化交流を通して 日本と海外の青少年の相互理解を深化

海外で日本語を学ぶ高校生を対象に開催されている「海外高校生による日本語スピーチコンテスト」が昨年で20回目を迎えた。自国の予選を勝ち抜いた各国の代表を招いて国際大会が行われ、その前後に11日間に及ぶ文化交流プログラムを実施。日本の高校生も参加して、国を超えた友情を育んだ。



第20回海外高校生による日本語スピーチコンテスト(7月30日、愛媛県松前総合文化センター 広域学習ホールにて)



最優秀賞を受賞した中国(上海)代表

20回目の節目を迎え初の地方開催へ 世界14の国と地域の高校生が会場

海外における日本語、日本文化理解をサポートする目的で1995年より始まった本事業は、「海外高校生による日本語スピーチコンテスト(以下JSA)」と、コンテスト出場者と国内の青少年が交流活動をする「JSA異文化交流プログラム」で構成される。これまで毎年首都圏で実施されてきたが、20回目の記念すべき昨年度は愛媛県松前町でのコンテスト開催となった。主催するNPO法人エデュケーション ガーディアンシップ グループ事務局長の羽賀正弘さんは、「自治体、学校、大学、ホームステイの家族など地域全体のご協力をいただいて初めて地方での開催が実現し、国際交流の機会を広く届ける一歩になりました」と評価する。

7月30日に松前総合文化センターで開催されたコンテストには世界14の国と地域の代表15人が出場し、自由なテーマでの日本語によるスピーチと質疑応答が審査された。スピーチのテーマは、自分の夢や体験、日本での思い出、日本と自国の比較、日本のサブカルチャー、東日本大震災の被災地を訪れて感じたことなどさまざま。最優秀賞は、スピーチに挑戦した経緯を通して自分の可能性を信じることの大切さを訴えた中国(上海)代表が受賞した。会場には、県内の高校生を中心にこれまでで最多の約700人が集まり、世界の若者の熱いスピーチに耳を傾けた。

「『一度にこんなに多くの国の高校生の思いや考えを知る機会はないのですごく刺激を受けた』『外国語の勉強をもっと頑張りたい』など、例年以上の反響がありました」と、JSA国際事務局の北川真希さんは振り返る。

国内外の高校生が交流活動を通じて 異文化を理解し合う11日間

コンテストに前後して7月24日～8月3日の日程(東京都、埼玉県、神奈川県、愛媛県)で行われた「異文化交流プログラム」には日本の高校生も参加して、一緒に日本文化体験や学校訪問、観光地巡りをしたり、寝泊まりをともにして海外高校生と交流を深めた。なかでも昨年度の目玉と言えるのが「国際交流フェア」(7月26日、川崎ソリッドスクエアホール)である。世界の多様な生活を知るため、各国の海外高校生による学校生活についてのプレゼンテーション、手ぬぐいワークショップ、日本文化体験、各国の文化比較展示など盛りだくさんの内容で、一日を通して国内外の文化を理解する有意義なプログラムになった。

「国際交流というとハードルが高そうに思われがちですが、日本語で交流できるのがこのプログラムの長特です。海外の若者に日本を理解してもらうだけでなく、海外の同世代が何を考え、どんな生活をしているかを知ることで、日本の若者が世界に目を向けるきっかけになればよいと考えています」と羽賀さん。

実際、JSAに参加した国内外の高校生からは「世界が広がった」という声が多く、これまでの参加者のなかには、さまざまな形で「日本と世界の架け橋」の役割を担う人材が育っているという。留学をしたり、観光局や企業の国際的な仕事に従事する者も多い。こうした活動の広がりこそ、JSA事業が目指しているものにほかならないのだ。



折り紙や習字など日本文化を体験する国内外高校生(国際交流フェア)



日本と海外の高校生の文化交流を実現

助成団体: 特定非営利活動法人 エデュケーション ガーディアンシップ グループ(E.G.G.) <http://www.egg-or.jp>



日本と海外の青少年の架け橋となるための活動を継続

AJOSCの助成は、海外からの高校生をはじめ、コンテストの審査委員やボランティアなどの交通費・滞在費に活用させていただきました。20回目の節目となる昨年度、愛媛県で初の地方開催が実現できたのもご支援のおかげと大変感謝しています。いただいた認定書を励みに、今後も活動を通してご信頼に応えていきたいと思っています。

NPO法人 エデュケーション ガーディアンシップ グループ
JSA国際事務局 北川 真希さん